

海陽町第3期教育振興計画策定委員会（第3回）

議事録

日 時：令和3年3月5日（金） 13:00～14:00

場 所：海南文化館 大会議室

出席者：委員10名中9名出席（別紙名簿参照）

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川氏
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子、佐々木

【会議次第】

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 議事
 - (1) パブリックコメントの結果について
 - (2) 計画案について
 - (3) その他
- 5 閉会

【議事進行】

■議事1 パブリックコメントの結果について （事務局）

2月24日から3月3日までの1週間、海南庁舎・海部庁舎・宍喰庁舎及び教育委員会、海陽町のホームページで広く意見を募集しましたが、特に意見等の提出はありませんでした。以上、結果報告します。

（皆津委員長）

興味がないという訳ではないと思いますが、町民からの意見はなかったということです。これにつきまして、ご意見・ご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

※特になし

■議事2 計画案について

・事務局から説明

(皆津委員長)

ただ今の事務局の説明につきまして、何かご意見・ご質問等ございませんか。

(辻委員)

今回配布された参考資料のページ番号は70ページからになっていますが、計画では66ページからとなっています。何かページが増えているのでしょうか。

(事務局)

写真を計画に挿入した関係で、ページ数が増えました。内容が変わることはありません。

(辻委員)

それはまた、後で配って頂けるのでしょうか。

(事務局)

出来上がったものは皆さまにお配りします。

(皆津委員長)

他にございませんか。

(片山委員)

52ページのICT教育についてですが、中学生と小学校1年生は授業数が大きく異なります。そういう中で、成果目標がAI教材活用時間数70時間(年間)とありますが、総括して70時間なのかどうかという疑問があります。また、授業1時間の中で有効な使い方として15分間くらい復習に使った場合、どのようにカウントするのでしょうか。この項目だけ成果目標があいまいという印象を受けましたので、表記の方法で工夫があればいいなと思いました。

(三浦教育長)

成果目標につきましては、担当の方から園・校長会を通して、カウントの仕方も含めて連絡します。現在、69すべての事業につきまして、成果目標ならびに各年度の達成値を作成中です。計画には、主だった事業だけ掲載しています。掲載していないものも含めて、改めて説明させていただきます。

(宮田委員)

英語関係も同じように何らかの基準が出てくるものと考えていいのでしょうか。

(三浦教育長)

はい。英検につきましても、県の達成目標に合わせました。

(皆津委員長)

他にございませんか。意見がないようでしたら、委員会として、この計画案を承認してよろしいでしょうか。

※異議なし

(皆津委員長)

ありがとうございました。異議なしということで、この計画案を承認することにいたします。

■議事3 その他について

(長尾委員)

海陽町の子どもを見て気が付くのは、高校を出たら都会に行く子が多い中で、帰ってくる子も多いということです。海陽町の環境は、都会に比べたら安心・安全です。大人の人も皆知った人ばかりで、ある意味恵まれた環境で育って、都会に行って、いろいろな事にあって帰ってくる子がいるのではと想像します。

都会に行ったら、このような危険がありますよといったことを計画に載せることはあるのでしょうか。他の市町村を例に教えて頂けませんか。

(事務局)

教育の振興に限ってですか。

(長尾委員)

人間を育てるという意味で教育かと思いますが、いい人ばかりではないですよといった教育も必要ではないかと思います。いま自分は親で、子どもを見ていたら、そういう危険があるということも伝えておこうと思っています。こういうことを計画に盛り込むことはあるのかなと思ひまして。

(事務局)

教育のセクションだけではなく、人権や福祉などそれぞれのセクションが取り組む自治体が多いです。消費者教育や犯罪防止の観点で、各セクションが研修やセミナーなどをして教育をしています。

(辻委員)

ひとくくりには、なかなかできないと思います。子どもの性格もありますし、行った場所にもよります。性格によって、はじめから人混みは馴染まないといって帰ってくる子もいます。同じ都会へ行っても、帰ってくる子と帰ってこない子もいますので、この教育の計画の中に、ひとくくりに入れることはできないのかなと思います。しかし、今言われたように、それぞれのセクションで考えていけないのかなと感じます。

(三浦教育長)

すべてを学校教育にというのは無理で、いろいろな形で学校は消費者教育にはじまり、スマホやインターネットの使用についても啓発したり、絶えずいろいろな場面で教育をしています。限界があります。各課の横の連携であるとか、家庭の教育の力も合わせていきたいと考えています。それから、保・幼・小・中・高の縦の連携もしっかりとつなぎたいと考えていまして、その辺りも計画に盛り込んでいます。

非常に大事な話ですので、その辺りを押さえていきたいと思います。ありがとうございました。

(皆津委員長)

性善説や性悪説のことかと思いますが、個人的に一番大事なのは「判断力」だと思います。情報過多の中で、いかによりよい判断をしていく、そして行動していくといったことを、家庭で、また学校で身に付けていってほしいと個人的に思っています。

(乃一委員)

計画をはじめに見た時に、横文字が多すぎるなという感じを受けました。頭の方がなかなかかついていけないというのが第一の感想です。

また、私が今まで教育を受けてきた中で、印象に残っていることがあります。中学生の時、修学旅行に行くのに貯金をしないといけないのですが、戦後の時代、なかなか積み立てができない家庭もありました。中学校でみんなお別れになるということもありますので、せめて何とかしてみんなで修学旅行へ行こうという話になりました。先生方が偉かったのですが、毎日放課後に、男子はどんどん水揚げされるブリをトロ箱に入れていき、女子は竹にメザシを指して、みんなの修学旅行のお金に充てていきました。みんなが一生懸命になって努力をして、お金をつくりました。お互い助け合って、苦勞して、あれこそが生きた教育だと感じました。地域の本当の教育なんだと思います。教育の原点というのを見たと同時に、これからもそういう町であってほしいと思います。

(宮田委員)

計画の表記ですが、33ページのグラフの数字が揃っていません。それと、45ページ

の文章ですが、1か所だけ段落の文頭にスペースが空いていません。

(元木委員)

さきほどの乃一委員と長尾委員の話を聞いて感じたことがあります。成人の年齢が18歳になるのに伴い、高校を出たらカードをつくれり、お金を借りることもできるようになります。徳島県は消費者庁が県にきていることから、講演会やモデル事業に関する情報も入ってきますので、金融教育等を学校などでしっかりやっつけていかないといけないなと感じます。また、グローバルやデジタルの方に話題がいますが、やはり直接体験できるようなことを幼稚園でもしっかりしていこうと考えています。廃品回収の時に子どもが新聞を運んだり、牛乳パックのリサイクルを通して「捨てたらゴミ、リサイクルをしたら新しい紙に変わる」ということを伝えたりするなど、体験できることを18歳までの間にしっかりできていけばいいなと思います。

この間からネットの社会にいる子どもたちの話をよく聞きますので、地域の奉仕活動やボランティア活動に行くという機会も、学校でしないとなかなか難しいのではないかと感じます。計画の35ページの「家庭教育で重視していること」にもありますように、「勤労意欲や社会の役に立ちたいと思う心」は少ないとはいえませんが、親の希望としては学力高く、いい仕事に就いて、安定して、資格をもって願ってしまいがちです。ですが、川を整備してくれる人やいろいろなモノをつくる仕事の大切さ、現場で働いてくれている人がいるから自分たちが支えられているという教育を、家庭でも発信してもらえたらと思います。「家庭でできないから学校で」ということもあります。それを学校から家庭に返さないといけないと思っています。家庭発信をするような取組をできればいいなと感じます。地域に子どもが少ないので、たくさん大人の子どもたちを大事に大事に育ててくれるので、子どもたちも安心して過ごせていますが、やはりそれを社会の役に立っていく力にしていくところまでつなげていけるような教育になっていければいいなと思いました。

幼稚園でもそうなんですが、お家の人の仕事が忙しいということで、負担にならないようにPTAの行事を組んだりすることもあります。しかし、やっぱり子どものために親が頑張らないといけないことは、頑張ってもらいたいということもあります。それを伝えていかないと、大変だからといって役割を取ってしまうばかりではダメで、いま大変なことをしたことが子どもに返っていくわけで、子どもも親の姿を見たら「うちのお父さんやお母さんはすごいな。こんな風になりたいな。」と思って、健全に育っていくのかなと感じています。

(皆津委員長)

大事なことだと思います。幼稚園でも小・中学校でも情報発信をしていかないとだと思います。家庭にそれを知ってもらうためにも必要なことだと思います。

(三浦教育長)

いまちょうど言われたことですが、計画の51ページに「家庭教育の充実」ということで新規で取り入れています。今まで家庭教育の重要性というのは、分かりながらもなかなか情報発信や研修などできていませんでしたし、昔はよくあった家庭教育学級なども今はありませんので、今回新規事業として打ち出していますので、これから具体的な取組を提案していきたいと思います。

(乃一委員)

私は社会教育の委員長をしていますが、教育というと学校教育がまず言われますが、元木委員がおっしゃったように、やはり本質的には学校に頼るのではなく、躰をはじめとした教育を家庭できっちりすべきだと思います。予算に関しても、学校教育には相当な予算がつきますが、社会教育には限られた予算しかつきません。しかし今、親が子を殺したり、子が親を殺したり、5歳の子どもが餓死したり、本当に日本人は病んできたと感じるようなことが日常茶飯事に起こっていて、これはまさに社会教育の衰退だと思います。

それと、町内の児童数の減少が極端になっています。同時に、学校統廃合の話が出てきますが、これは非常にデリケートなことです。子どもを育てていく中で、統合ばかりがいいのか教育分野の大きな問題ですが、一方で、子どもが増えていくようなことを進めていかないといけないと思います。子どもは宝です。宝である子どもが健やかに成長するためには、その家庭の生活基盤をきっちり整備していかないとはいけません。町に移住しても、子育てと生活が両立しないので元のところに帰るといえることになる、大きな不幸になります。若い人が来てくれて、生活ができるということ、町をあげて考えていかないといけないと思います。

(佐藤委員)

計画の中には入っていませんが、子どもたちの日常生活の中で占めているのは、スマホとインターネットだと思います。最近「スマホ脳」という本が出て、ベストセラーになっています。スマホがどのような影響を与えるかということが分析されていて、まずひとつは依存性が高いということです。それから、集中力がなくなってくるということも書かれています。ほとんどの人が並行して仕事ができないと言われている中で、ながら作業も増えてしまいます。この前、読書推進活動の関係でアンケートを取りました。中高生がかなりスマホを見る時間が多いという実態も出てきています。全国平均も上がってきていますので、これから海陽町にしても同じ傾向があるかと思い心配しています。絶対に使ってはいけないということではなく、時間を決めて有効な使い方ができるかということが大事だと思います。

(皆津委員長)

スマホとインターネットについて貴重なご意見をいただきました。子どもの問題という

より先に、保護者が相当使っていると思いますので、親の問題も大きいのではないかと感じます。この点について、幼・小・中でのスマホやインターネットについての取組はいかがですか。

(元木委員)

幼稚園では、メディアについての話を保護者にしています。脳の話をする、保護者は学力とリンクするのか話を聞いてくれます。今では、幼稚園に来る前から、普通に子どもたちはスマホを触っています。お家の人も「テレビは見ません。YouTube を見えています。」というくらいです。スマホを使っていると、視力も悪くなるし、のめり込むことで姿勢も悪くなります。お家の人も悪気なく「うちの子はすごいんです。」とっていますが、そこをできれば絵本とかに変えませんかと言っているところです。

昨日も保健関係の会があったのですが、子どもたちの寝る時間も遅くなったり、朝起きれなかったり、朝ごはんが食べられなかったりと、すべての生活が遅くなっています。ですので、やはり、お家の人に子どもが産まれる前に教育できたらいいなという話をしました。お家の人たちが、親になる前のマタニティの時に教育をしないと、お家の人赤ちゃんに授乳しながらスマホを触っていたら、子どもとしたら一番大好きなお母さんがスマホを触っているんだから真似てやりたくなるのも仕方がないと思います。やはり、お家の人にそれを伝えていかないといけないなと思います。大人になったらスマホを使うのは普通になってしまうので、中学生や高校生の時に、子育て体験などを通して「タバコはダメなんだよ」とか「スマホもあなたたちがし過ぎていたら、子どもも真似てするようになるんだから」と自分のことをコントロールできるようにと啓発しています。それと同時に、体をしっかり動かして遊ぶことなどを、お家の人たちに伝えていきます。陽が出ている間はしっかり外で遊ぶことで、必然的にお腹も空くし、寝るべき時間に眠たくもなるので、スマホなどがなくても子どもたちは十分遊べますということを話しています。

(皆津委員長)

小学校ではいかがですか。

(片山委員)

自分で買うことはできないので、保護者の管理をどう啓発するかが課題です。家のことなので、基本ルールというのは学校では言えませんが、年度当初や学期ごとに懇談などを通して望ましいことについては情報発信しています。でも、そうはなかなかいきません。携帯ではゲームもできますし、目覚まし機能もあります。携帯は万能ですから、何でもできます。高校へ行ったら、携帯で勉強もします。難しいところはありますが、基本的には「自分の部屋には持ち込まないでください。」「居間で使ってください。」とか、時間のことを啓発しています。

(皆津委員長)

中学校ではいかがですか。

(宮田委員)

特に時間を決めているわけではありません。心配なのはやはり、スマホなどから起こってくるトラブルに巻き込まれることです。ですので、携帯の使い方の教室などを行っているのが現状です。学校で枠を決めるわけではありませんので、家庭で使い方などを含めてしっかり話をしていってほしいというのが大事だと考えています。

(皆津委員長)

幼・小・中から貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。他にございませんか。

※特になし

(皆津委員長)

ないようでしたら、事務局から今後の予定などについて説明をお願いします。

(事務局)

本日承認いただきました計画案の内容をもちまして答申いたします。なお、計画に適宜写真を挿入したり、見栄えを考慮して多少レイアウトを変更するかもしれません。何卒ご了承ください。それでは、本日は最後の委員会になります。三浦教育長よりお礼のあいさつを申し上げます。

(三浦教育長)

皆津委員長をはじめ、策定委員会の委員の皆様には、これまで3回の委員会において、熱心に議論を重ねて審議結果をとりまとめて頂きました。本日答申をいただきました海陽町第3期教育振興計画は、本町の教育の振興に関する施策の総合的かつ、計画的な推進を図るため、学校教育、生涯学習、防災教育、人権教育、文化及びスポーツ振興、教育基盤の整備の各分野において、取組の方向性が具体的に示されております。この計画が絵に描いた餅にならないように、具体的な施策を年度ごとに策定して、確実に推進して参りたいと思っております。今後、教育委員会の協議を経て計画を確定しまして、教育現場だけでなく広く町民の皆様方に計画を周知して、取り組んで参りたいと考えております。

委員の皆様方、今後とも変わらぬご指導を頂きますよう、そして委員の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、簡単ですがあいさつに代えさせていただきます。本当にありがとうございます。

(事務局)

以上をもちまして、策定委員会を終了します。委員の皆様、どうもありがとうございました。

閉会